

## 第九週

## 川中島の戦

戦ひの原因や勝敗は話す必要は無い。兩雄の武勇を思ふさま話して聞かせて、これは作り話もちがふから、その兩雄が火花を散らした川中島さいふ土地の名稱は覚え込ませてもいゝと思ふ。川中島さいふ名を聞いた時に、豪い大將同士戦つたさいふ、おぼろげながらも思ひ出す位に話してきかせる。

## 第十週

## 桃太郎

年長組のこの頃になつて、今更、昔々ある所にお爺さんとお婆さんがあつて……話し出すわけでは無い。さうか、云つて、日本中の子供は、殊に幼稚園に来るような子は、すでにもう桃太郎の話は皆知りぬいてゐるだらうから全然省略、考へてしまふのも早合點のきらひがある。そこで、

方法はいろいろあらうが、その一つとして、まづ筋をはつきり覚えてゐる子一人に話させる、或は先生一人がみんなに問ひながら話す仕方もある。子供が知つてる知つてる云つても、例へば桃太郎が桃から生れて、もうすぐに鬼を征伐してしまつたさいふ、多くはそれで話をかたづけたる場合があるから、斷片的な子供の記憶を敷衍しながらまゝめてゆく場合が屢々ある。舌切雀や桃太郎などは多くこの方法を用ひる。

或は又、話はすつかり別になるが、日本童話選集中北川千代氏作「桃太郎さんの話」さいふのがある、面白く出来るから、これを話して聞かせてもいゝ。然し前の話がつかりのみ込めてからのこと。

七五三について

これは先生の方から積極に話すことでは無く、子供の話をきいてやる程度。多くは美しい着物を着て、楽しい所に

遊びに行つていふ話になるので、中には祝延ばしを縁起よしとする家もあつて、在園中にこの祝に當らない子のあつる事も考へて、個人々々の祝には深くはいらぬようにしたいと思ふ。

### 第十一週

馬鹿な馬

イソップのものである。我が國幼稚園創設當初は多くイソップのものを談話材料にしてゐた。それはその頃修身はなしなごがあつたので、丁度イソップの持つ教訓がむかへられた爲であらう。今ではさうもあまり用ひられないが、

## 観 察

### 第八週

赤さんぼ(年少組参照)

ききやう

秋の秋らしい花であるから、ぬりゑをする時は非花瓶に用意したい。花の構造なご詳しくみせる必要はないが花の

まあ名残りの一つとして配當の中に入れたのである。これはごく短い話であるから、最初は先生が話してきかせるが、幼児が話してもいゝと思ふ。そのために短い話をこゝに選んだのである。

### 第十二週

羅生門

恐ろしい腕の話をして、久しい間避けてゐた。けれど一人の子の注文によつて、さうかと思ひながら話して見たら、大そう面白がつて、二度つゞけて話したこゝがある。この頃になるさ却つて恐ろしいのに興味を惹かれるのであらう。

色ミ形、蕾の形の特長をぬりゑをするについて注意する。

### 第九週

球根植ゑ

水仙、クロッカス、チューリップ等の球根を植ゑる時期である。もう少し早い頃でもよい。春の種蒔きの時の様な